

第 8 講：選択と不選択—教えとともに生きる道

国際学部言語教育研究センター准教授
深川 治道 Harumichi Fukagawa

本講座の趣旨の中に次の一節があります。

「世界が大きく激動している今日、私たちの価値観や身の回りの生活もしだいに変化し、いつのまにか多様な価値観が生まれてきました。しかしその価値観は、ややもすると利己的な価値観となって、「我さえ良くば、今さえ良くば」の風潮を拡大・助長する危険性をもはらんでいます。そのような現代社会の中で、私たちが日々考え行動する拠り所は、常に天理教の教えに基づくことは言うまでもありません。」(下波線筆者挿入)

この中の「我さえ良くば、今さえ良くば」は『論達第一号』(立教 161 年 10 月 25 日)の中に使われていて、それ以降、教内でよく使われるようになったような気がします。しかし、『天理教教典』第 6 章「てびき」にも「われさえよくばの我が身思案」という言葉が使われています。ですから、このような表現はそれほど新しいことではないでしょう。そして、言うまでもないことですが、「我さえよければ、今さえよければ(それでいい)」という人間のあり方は、天理教の教えに基づく人間のあり方ではないことが含意されていることは明らかです。

一方、趣旨説明には「多様な価値観」が生まれてきたと書かれています。多様な価値観とは、それは親神様から人間に与えられた「心の自由」の産物とも言えるでしょう。もともと人は皆それぞれ違うのですから、それぞれ心も違い、価値観も多様であるのは自然なことなのではないでしょうか。

多様な価値観の生成はマイナス面だけでなく、私たちの世界観を豊かにしてくれる面もあるでしょう。価値観の多様さが顕在化したのは、昨今インターネットなどの進歩によって人々が、それぞれの価値観を主張し、一般に公開することが容易な時代になったことも一因でしょう。

さらにこの講座の趣旨説明では、「天理教の教えに基づく生き方、行動のあり方を、現代社会における具体的事例の中から考える」ことを謳っています。しかし、その答えのいくつかはすでに見たように趣旨の中に用意されています。つまり、「利己的な価値観」ではなく「我さえ良くば、今さえ良くば」ではない生き方、行動のあり方となるのでしょうか。

私は徒歩と電車で通勤しています。「脅かされる」という表現はいささか大げさかもしれませんが、その途中で危ないと感じることがあります。また、いったい何を考えているのか、と思うような行動も目にします。この人たちはどういう行動の選択をしているのか、誤った選択をしているとは思わないのだろうか、それとも何も考えることなくそうしているのか、などと疑問を持ちます。

ここ数年目につくのは交通規則の無視です。歩行者も自転車も車もです。車は運転を職業とする人が運転するタクシー、トラック、さらには公共交通機関であるバスでさえも信号無視をするのを目にします。また、歩道の手前できちんと停止したり、歩行者の安全を確保してすれ違ったり追い抜いたりするというのできない運転者が増えているような気がします。

自転車はそのマナーの悪さのために、事故が多くなり、最近問題になっています。歩道を自転車が走る時に、歩行者のことを考えず、スピードを落とさずに走ったり、ぎりぎり数センチの距離

で追い抜いたり、すれ違ったりする運転者がいるのです。

天理で本通りを歩くときも、自転車はもっとも恐ろしいものです。なぜなら、通勤通学時に横に 2 列、3 列、あるいは 4 列になって走る学生や勤務者がいて、さらに上のような走り方をする運転者もいるからです。また、自転車に乗って、一緒に歩く人に合わせてふらふらしながらゆっくり走るのも困りものです。

携帯電話で話しながら自転車に乗るのは、昨今は少なくなりましたが、今は携帯電話を見ながらメールをしたり、あるいはスマートフォンでインターネットやゲームをしながら運転するのがいるので、気が抜けません。

最近ではニュースで、ブレーキのない自転車に乗る人がいることが報じられていました。先日ある男が初めて検挙、送検され、罰金が確定したというニュースがありました。ニュースでは、その男は歩行者にけがをさせる危険性があることを認識していたと報じられていました。また、その男は数カ月前にすでに違反切符を切られ、自分は二度とブレーキなしの自転車に乗らないと誓約書を提出していたというのですから、男は自分自身にも嘘をついていたことになりそうです。

正直は天理教の教え中で、私たちの日常生活に直結する身近で大切な教えだと思います。『稿本天理教祖伝逸話篇』第 29 話「三つの宝」に、教祖が 3 粒の粿を飯降伊蔵の手の上にのせ、それぞれが「朝起き、正直、働き」であり、「この三つを、しっかり握って、失わぬようにせにやいかんで」とおっしゃったという話があります。

また同書の第 111 話「朝、起こされるのと」には、「陰で働き、人を褒めるは正直。」というお言葉があります。ここでは日常言語で使われる意味とは異なる、味わい深い意味が「正直」に与えられていると思います。また、この後に「聞いて行わないのは、その身が嘘になるで。」というお言葉が続きます。教えとともに生きるために、日ごろから心すべき警句だと思います。

車と歩行者(自転車を含む)が分離した信号では、歩行者と自転車の信号無視にしばしば出くわします。残念ながら、信号無視は天理本通りでもしばしば目にします。私は比較的朝早く出勤することがあるので、朝勤めの行きや帰りの時間にあたることもあり、その時に法被を着ている人が信号無視をするのを目にすることがあります。

交通規則を守らないということが、教えにかなった選択だとは誰も言わないでしょう。それとも、法律を守るということは天理教の教えとは無関係だと言うのでしょうか。法律もまた親神様から私たち人間に授けられた「知恵の仕込み」「文字の仕込み」によってできたものなのですから、これを守るべきであることは当然なはずで

膨大な情報に囲まれた現代社会において、適切な選択をするためには、学ぶことが重要であると思います。情報化社会において知識は私たちを守る盾だと言えるかもしれません。親神様によって「知恵の仕込み」「文字の仕込み」を授けられた私たち人間は、学び続けていくべきだと思います。親神様からいただいたこの賜物を生かしていくことがいつそう求められる時代になったように思えます。